

●全国老人給食協力会 代表 石田惇子

●代表就任のごあいさつ

二月五日に全国老人給食協力会臨時運営委員会が開催され、平野真佐子さんの逝去に伴い、新運営体制が協議され、私が代表となりました。誌面を借りまして、みなさまにご挨拶申し上げます。

平野真佐子さんとは東京食事サービス連絡会・全国老人給食協力会などで、ご一緒させていただきました。食事サービスに対する情熱と行動力、さらに鋭い観察力には感服していました。頼って安心という方でした。その平野さんの後を引き継ぐというのは、力不足で荷が重すぎます。しかし、各地で活躍してい

る方々が副代表となつて役割分担をしてくださいます。

私が食事サービスに関心を持つようになったのは、親を介護しての体験からです。痴呆症状の出た義母が最初につまづいたのが食事の用意でした。食事さえあれば、義父母達はもつと長く自分の家で暮らせただろうにと。そんな想いから平成三年に「稲城の老後を支えあう会」の会食会のボランティアに参加。しばらくして事務所の仕事にも係わるようになり、平成七年に代表となりました。平成十二年には特定非営利活動法人「支えあう会 みのり」の理事長になりました。

べんけい草64号にてお知らせしましたとおり、新役員のみなさまは次の方々です。

代表 石田惇子

(特定非営利活動法人みのり理事長 東京都稲城市)

副代表 藤田佐和子

(特定非営利活動法人あかねグループ代表理事 仙台市)

副代表 坂田朱美

(特定非営利活動法人いきいき会代表理事 大阪府高槻市)

副代表 久保幸枝

(北九州市食生活改善推進員協議会会長)

順不同

事務局長 平野覚治

(老人給食協力会ふきのとう 東京都世田谷区)

今後ともよろしくおねがいいたします。



写真：代表 石田 淳子 (いしだあつこ)

全国に住民参加の 食事サービスの輪を 広げていきませんか。

はじめは「食の確保」が一番重要と思っていました。けれど、講演会、セミナーや全国老人給食協力会の運営委員会などの話し合いをおして、住民参加の食事サービスはもつと他の役割があると気づかせても

らいました。

まず、食事を媒介して地域で希薄になっている人間関係を結びつけることができることです。

配食利用者と配達ボランティアとの会話、会食会参加による触れ合いなどで、高齢者が地域の中で孤立を防ぐことができますし、ボランティア自身も高齢になっても元気な内は虚弱な高齢者を支えていくことで、地域に知人友人の輪が広がっていきます。さらに、担い手側の介護予防になっているともいえます。

活動の幅を広げたり、他の関係機関と連携したり、行政に提言していくことです。

住民参加型食事サービスの多くの団体が「利用者の立場だったら」という姿勢が強いと思いますが、私も自分自身が利用者になる時まで、この活動が継続し、「私の欲しいサービス」を利用できる様な仕組みが出来上がっていることを願っています。現在頑張っています。その為には、多くの仲間が必要です。全国に住民参加の食事サービスの輪を広げてくださいませんか。

今後ともよろしくお願いたします。